

図書館フレンズべっぷ

第5号

2020年11月23日に渡部幹雄氏(和歌山大学名誉教授)をお招きし、講演会を開催。自治体や大学で図書館の立ち上げから運営に携わってこられた経験や、国内から海外までたくさんの図書館を見てこられた中から、多岐にわたってお話していただきました。講演内容を抜粋し、ご紹介します。

渡部幹雄さん講演会「世界の日本の図書館と市民」

講演より

●図書館と私

18歳、図書館のない町で暮らした自分は人生において損をしたと感じた

図書館のない緒方町(大分県大野郡)から東京の大学に進学した際に、はじめて図書館に出会い、「こんな便利なものを東京の人は使っていて、私の人生は損をした。若い時に図書館にふれれば、もっと違う人生を歩んだのではないか」という思いにかられました。

その後、地域の文化的なギャップを解消したいと、緒方町に帰り、図書館づくりに奔走します。しかし見事に失敗。どうしたらうまくいくのか考え続けました。図書館を市民の近い所にたぐりよせて、自己実現や人生の目的を見つれたり、あるいは地域の交流拠点にしたいと思いました。



●イギリス視察と森山町立図書館(長崎県)

図書館づくりで悩みイギリスへ視察に市民生活に溶け込んだ図書館に衝撃

長崎の森山町からの依頼で、「木造で日本一大きな図書館」づくりに関わりました。図書館建設にあたり「どうしたら利用されるか」考えました。日本の図書館界でいわれていることを頭にいれつつも、自分が納得できるものと、海外まで行って世界の図書館を見してきました。

1994年、イギリス全土を3か月かけて周りました。



ロンドン中心部、新興住宅地、農村、漁村、エリアごとに丹念に図書館を見学。「これはただ事でない」と驚愕しました。こんなに市民生活の中に溶け込んでいる図書館の姿を日本にも普及したいと思いました。

帰国後、当時の日本の図書館理論もふまえつつ、自分が納得する図書館のありかたを提案しました。長崎県森山町の図書館で、人口5500人の町に24万冊の貸出しで、これは住民一人当たり年間40冊近い利用です。「貸出し密度(人口1人当たりの貸出数)」日本一になりました。やはり自分で考え、海外を見聞の上で丹念につくったものは間違いないと確信しました。

えちがわちょう

●「屋根付きの公園」愛知川町立図書館(滋賀県)

市民と歩む公共空間をどう作っていくか地下足袋で来る人がいるかどうか鍵

1998年から携わった滋賀県愛知川町(人口9300人)では、町に中学校が1校しかなく、中学を卒業した後に学びを保障できるような蔵書構成を考えて、やや大きめの図書館をつくりました。小さな町に3000㎡近い図書館です。1㎡で大体100冊収納できるので単純計算で30万冊の蔵書が可能です。無謀にも思える計画を議会の方に説明し実現しました。

この図書館のコンセプトは「屋根付きの公園」です。公園は誰でも許可なくいけますね。老若男女、普段着で利用出来ることをコンセプトにしました。12億円かけたピカピカの空間に、地下足袋で、来る方がいらっしやるかどうか成功、失敗のひとつの目安でした。在任期間中にそういう方に何人も遭遇しました。町民の方から、支持を頂いたと感じています。

愛荘町立図書館は2020年に開館20周年を迎え、20年前の蔵書数の目標は達成し、重視していた「町民と近い距離にある図書館」を理解して頂いたのではないかと思います。

●世界の図書館から学ぶ(スウェーデン)

人生の段階に応じた本のメニュー 司書は専門職としての位置づけ

世界の図書館を実際に見て感じたことをお話ししましょう。

スウェーデンの離島、ゴットランド島の図書館。人口は(視察当時)約2万8千人。大学と図書館が合体していました。1階は子どもが乳母車で訪れ、2階は一般、3階は研究者向け書籍。人生の段階に応じたメニュー本が用意されていました。日本では、わかりやすい本を並べれば利用が増えるという人もいるけれど、それぞれの段階に応じた痒いところに手の届く蔵書が大事だと感じました。

また、スウェーデン北部では、公立図書館と学校図書館が合体していて、学校に市民が入ってきて本を読んでいた。学校の中に市民も行ける図書館、こういう方法もあるのです。

スウェーデンは司書の位置づけが日本とは違います。日本では机もないという司書がいるけれど、スウェーデンの図書館には司書の部屋があります。専門職としての位置づけを確保しています。研修制度や養成制度も保証されています。日本はいまだに図書館にお金をかけるのはもったいないと思っていますが、北欧の先進国は図書館にお金をかけることが定着

しているのです。

●世界の図書館から学ぶ(アメリカ)

アメリカ、住みたい都市トップは 図書館サービスを充実させた町

アメリカ西海岸の一都市ポートランド。人口49万人だった町が30年後に65万人に増えました。全米で30年間、住みたい都市トップとなっている憧れの町です。成長の要因は空き店舗を開放したり、起業家が育ちやすい環境づくりにもありますが、根幹にあるのは図書館サービスの充実ではないかと思っています。分館が人口49万人都市に21館ありました。これは家から自転車で行ける範囲内に図書館が1~2か所あるというレベルです。だいたい大分市と同じくらいの規模の都市です。

本館もレベルが高い。案内に「5か国語に対応できるスタッフがいる」と書いていました。層の厚みを感じます。専門的なライブラリーに専門的なスタッフ…知の拠点は図書館という認識があるのです。

●日本の図書館の現状

図書館の真の理解がいきわたれば、 予算も付き、人も付くのでは…

日本の図書館はどうかというと、市町村によっては図書館のない所がまだ存在しています。そのことは今も昔もあまり変わりません。小さい町に行けば行くほどない。どうしたら図書館が普及するのか。今まで私がこだわってきたように図書館とは何かを追及することで、真の理解がいきわたり、予算も付き、人も付くと思っています。「図書館とは何か」の追及がないものだから、みんなそれぞれ図書館観が違うんです。学校教育と比較すると、学校教育は手を抜くとバッシングを受けます。受験に必要なことだけが高校生活に必要な学びかということ、「そうではない」と皆さん一致できるわけです。ところが、図書館に限っては、貸し出し



対人関係が苦手な人々に犬への読み聞かせを介しての図書館サービス
(アメリカ・ポートランド市の公共図書館)



小学校の学校図書館にプロジェクターやオルガンも配置
(アメリカ・ポートランド市の小学校)



理科室の標本展示ケースに隣接する図書館の自然科学関連本のコーナー
(アメリカ・ポートランドの学校図書館)

だけやれとか、賑わいだけやれ、コーヒーが飲める…とかになってしまいます。全体像が見えてないで走り出してしまい、本来の図書館を知らずして、やや小さめの図書館がどんどんできたりしています。

●世界水準の図書館にするために

図書館の力を知ること 資料との出会いを構築する司書の仕事

では、図書館とはどういうものかという、1994年に出されたユネスコ公共図書館宣言の中の「公共図書館の使命」、ここに列挙されているものが図書館で保障されれば、世界水準の図書館になるでしょう。北欧や北米等の世界の図書館は、こうしたことをふまえて図書館を運営されています。日本は本当の「図書館の力」を知らずに、あーじゃない、こうじゃないというのが続いているというのが、私の個人的な感想です。

例えば「ユネスコの図書館論 12 項目」の中に「口述による伝承を援助する」とあります。ペーパーだけではない、昔の言い伝えなどの地域の情報を残していくことを図書館の役割としています。いま日本はこういうことがそぎ落とされ、機能的な図書館論、コンビニのように使える図書館論が普及してきています。これは図書館の本来の成長を妨げる原因の一つになるのではないかと思っています。

司書も日本では、残念ながら脆弱な専門制度です。資格は持っているのに仕事に付けない。一生懸命仕事をするが正職に付けない。学校教員は臨時が学校の半数を占めることはありえませんが、図書館は全部臨時はありえます。本を配架して貸し出しをするだけの図書館論がでてきてしまうのは当然です。

司書は機械的な仕事ではなく、状況判断、想像力が求められます。利用者の動向を見て、頭で組み立てていく仕事。機械のようにやっていくと、無人状態でよいということになります。それでは世界水準の図書館とはほど遠い。いつまでたっても成長できません。

インドの図書館学者、ランガナタンが「図書館は成長する有機体」だと言っています。だんだん施設も大きくなったり、新しい住民ニーズにこたえられる進歩のある図書館。図書館もやるのがたくさんあります。学校に教師、病院にドクターというように図書館にも司書の専門性を尊重し、育てる運営が必要です。

●市民と図書館のいい関係

暮らしの中に余分なものも必要 受け止めてくれる図書館は精神安定剤

岐阜県中津川市の図書館が、市民との協力関係が素晴らしい。備品を買うお金がないときに椅子や机を作ってもってきたり、彩りをと、市民がプランターに花を植えて管理しています。こよなく図書館を愛する市民の方々です。

「啐啄同時」という言葉がありますが、卵を内側(雛)と外側(母鳥)が、阿吽の呼吸で誕生をめざしているのです。市民と図書館もそういう関係が大切。クレームだけではなく、市民が協力したくなる雰囲気があることが大切ですね。あゆみはのろいですが、じっくり、いいものをつくっていきましょう。急激に流行ったり、進行するのは急激に消える。不易流行の精神です。コロナ禍で今までの考え方がかわってきている今、図書館も問われています。

ユネスコの宣言の中に「正常のための学習を保障しなさい」とあります。コンピューターで情報を得るだけではなく、生き残るために学ぶ拠点が大切、判断力を育てるのは図書館です。

いいものを作れば人々は寄ってきます。快適な暮らしの中に余分なものも必要。受け止めてくれる図書館は精神安定剤になります。そういうことに着目できるかどうかです。無料で使えて、自分の思いや物に快適に情報提供してくれるのが図書館。住民の要求に状況判断で対応しサービスできる職員を育てることが大切です。

ユネスコ公共図書館宣言（1994年）の中にある「公共図書館の使命」の12項目

情報、識字、教育および文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館サービスの核にしなければならない。

- ① 幼い時期から子供たちの読書習慣を育成し、それを強化する。
- ② あらゆる段階での正規的教育とともに、個人的および自主的な教育を支援する。
- ③ 個人の創造的な発展のための機会を提供する。
- ④ 青少年の想像力と創造性に刺激を与える。
- ⑤ 文化遺産の認識、芸術、科学的な業績や革新についての理解を促進する。
- ⑥ あらゆる公演芸術の文化的表現に接しうようにする。
- ⑦ 異文化間の交流を助長し、多様な文化が存立できるようにする。
- ⑧ 口述による伝承を援助する。
- ⑨ 市民がいかなる種類の地域情報をも入手できるようにする。
- ⑩ 地域の企業、協会および利益団体に対して適切な情報サービスを行う。
- ⑪ 容易に情報を検索し、コンピューターを駆使できるような技能の発達を促す。
- ⑫ あらゆる年齢層の人々のための識字活動とその計画を援助し、かつ、それに参加し、必要があれば、こうした活動を発足させる。

講演会の感想

大変興味あるお話でした。市民が参加して良い図書館を作ることは素晴らしいと思います。

様々な特色のある図書館があるのを知りました。良いところを取り入れて別府ならではのいい図書館ができるいいと思いました。

「ユネスコの公共図書館宣言」…これは図書館を考えると、とても大切なものを示してもらえたと思います。

世界との差を知ることができました。

本が好きなので、先進的な図書館の話はワクワクして楽しいです。参加者が10代、20代の若い方がもっと増えると良いと思いました。

渡部先生の言われることが少しでも別府市の図書館に届くと嬉しいです。聞きやすくとても良かったです。市民向け講演会はとてもよい取り組みだと考えます。素晴らしいです。

ただ本の貸し出しをするだけの図書館に対する概念に新しい風を吹き込まれた。

講演会参加者アンケートより



たくさんのご意見、ありがとうございました。抜粋して掲載させていただきました。

別府市新図書館への期待やご意見

プロと呼べるような専門的な司書をお願いしてほしい。

各学校で読み聞かせがぁっているの、何か月かに1回は勉強できる講座もあると嬉しい。

蔵書数だけでなく、誰もが生涯にわたって利用できる、本当に役立つ本を揃えてほしい。現状では利用する人知らない人が分かれていて利用率が低いのがもったいない。

これから図書館の役割は、さらに多様化すると考えます。様々な要求にこたえる図書館となればと思います。

渡部先生のおっしゃる多様性のある図書館活動が市民の文化的興味や好奇心を刺激して活気に繋がっていくことを願っています。

新しい図書館づくりは大切なことですが、全市民へのサービスを考えたとき、全市を網羅できる分館網の計画を作りたい。その一歩として現在の図書館を残し、新たに分館として整備してもらいたい。

誰もが気軽に立ち寄れる場があつてほしい。軽い食事が取れたり、飲み物など置いているとありがたいですね。外国の方が多いので通訳など何名が必要では？

読書会等「本を語る場」を作っていたさくたく思います。

「図書館は成長する有機体」という視点から別府市立図書館がどう生まれ変わるか楽しみにってます。

地元の資料調査のために「書店には置いてないもの」を、図書館では触れさせてもらっています。郷土資料のコーナーをもっと充実して欲しい。

新図書館にどのように関わりたいか

関わるというか、本を読む、借りる、プラス、立ち寄りやすい、ホッとする場になれば通いたいと思います。

生涯にわたって利用していけるのを楽しみにしています。

「私の図書館」という意識をもって関わりたいです。

図書館ボランティアに参加して

佐藤 慶子

図書館に
詳しくなれます！
みなさんどうぞ



日頃、本を借りるという目的だけで図書館を訪れますが、今回、図書館のボランティア募集に応募して、返本の配架のお手伝いをしています。

私は月に2回程、3時間で参加しています。事前には、丁寧に配架の場所や注意点のオリエンテーションをして頂き、安心してスタート出来ました。配架を続けていると作家さんのシリーズのコーナーもわかるようになり、読んでみたいなあという本もたくさんみつかります。他のボランティアでは、本の修理や読み聞かせもありますので、次回のボランティア募集には、ぜひ参加してみませんか？

図書館ボランティアに参加して思ったことは

- ① 毎日の返本が多く、司書さんだけでは、大変。
- ② 高齢者が多く、常連さんも多いが、初めて来館された方は検索しても本をみつけるのが難しく司書さんに聞くことをためらうので、サポートする人がいると助かるのでは。
- ③ 今は、コロナ禍で難しいですが、季節や今の話題にふさわしい図書コーナーをより充実することで、益々多くの方々が楽しみに来館されるのでは。

このようなことが、新図書館で活かされるといいですね。また、皆さんも図書館ボランティアに参加してみると、新しい発見、喜びがきっとありますよ。

ボランティアのお問い合わせは、別府市立図書館へ TEL0977-22-4844